



ライズ通信

第3号

2004年2月
発行



NPO法人リヴォルヴ 学校教育研究所



二の宮事務所

〒305-0051 つくば市二の宮4-8-3 1-404
電話/FAX 029(856)8143

ライズ学園 谷田部教室

〒305-0861 つくば市谷田部2983 (アラキヤさん2階)
電話/FAX 029(836)8447

E-mail npo_rise@ybb.ne.jp

ホームページ http://www.rise.gr.jp

小さな教育改革

不器用？ な子ども達

力があるにもかかわらず、テストではその力を十分に発揮できない子ども達がいる。A君は1問でもわからない問題があると、それが気になってなかなか先に進むことができない。ようやく答えを導き出して先に進んでも、時間切れになってしまったりする。それでなくても自信を失いかけているから、「もう、どうでもいいや」とばかりにテストを途中で投げ出してしまうこともある。

わがまま、がんばりが足りないといえはたしかにその通りであるには違いない。しかし、ただ「がんばりなさい」と言うだけでな

く、指導者が具体的にどのような助言や工夫ができるかによって、子ども達は伸びもするし、縮んでしまいもする。

何のためのテストなのか

「『こんな問題を出すよ』というプリントを出してみました」と、英語教育研究会に参加している若い先生が報告してくれた。テスト前にはどの学校でも、試験範囲表を子ども達に手渡す。しかしその多くが、「教科書：何ページから何ページ。ワークもしっかりやっておきましょう」程度のごく簡単なものだ。これに下のようなプリントを加える。

- 1 放送を聞いて答える問題 これから4人の人が、道を尋ねている会話を放送します。それぞれの目的地は地図上のどの建物か、放送を聴いて記号で答えなさい。(2点×4)
- 3 文中の()の中の語を適する形に書き換えなさい。(2点×7)
例題 What language is (speak) in Singapore?
- 7 次の英文を読んで、以下の質問に答えなさい。
(1) 次のア～オの中で、英文の内容にあっているものを2つ選びなさい。(2点×2)
(2) ()～()の中に適する語を下から選び、記号で答えなさい。(2点×3)

これには、「子ども達が答えを丸暗記したり、事前に塾で答えを教わってきたりしたらテストとしての意味がなくなる」との批判もある。しかしここで考えたいのは、なぜテストを行うのかということだ。通常、学校で行われるテストの目的は、合否を選別することでも、子ども達を5段階に振り分けることでもない。子ども達自身が学習の達成状況を知るとともに、指導する側もまたその成果を確認し、以降の学習に生かすことがその第一の目的であるはずだ。

本来のテストとは、子ども達を動機づけ、その力を伸長するものでなければならない。とするならば、ここだけは確実に覚えてほし

いという学習事項、たとえば上記3の ような問題は例題として示してもいい。授業中に道案内について練習をしたとしても、今の段階でどこまでの力を子ども達に期待するのかを教師ははっきりと示す必要もある。聞いて理解できればいいのか、それとも 'Go straight . ' などの表現を正確に記述できるまでを期待するのか、それによって子ども達の学習の仕方が変わってくる。

短所は長所

さて、話をA君に戻そう。彼には事前に問題のあらかたを知らせることで、それぞれの問題に割く時間配分を考えさせる。それでも

制限時間の中で終わられなかったとしたなら、残りの問題をそのままにせず、あらためて挑戦する機会を与えたい。無愛想に、「放課後に残って、もう一度」と言えば、誰でも拒絶したくなる。しかし「先生も君の力を知りたいし、君自身にも力がついてきていることを知ってほしいんだ」と親身になって話せば、きっとわかってもらえるはずだ。

子ども達一人ひとりに応じた十分な解答時間を確保する工夫も必要だ。事務職員の採用試験であればいざ知らず、子ども達に速さや正確さばかりを求めるべきではない。あの裏面に続く



ライズ学園の子ども達
「きれいな石だる！」

ライズのあしあと 今年度のおもな活動をまとめてみました

2003年 3月

* 公開講座「つまずきがちな子ども達への理解と支援
～一人一人異なる、可能性の伸長を目指して～」開催。



参加者約220名。講師：茨城大学松村多美恵先生
NPO法人エッジ藤堂栄子氏、茨城大学篠田晴男先生
筑波大学熊谷恵子先生、
NPO法人ライナス教育研究所栗島岳史氏

2003年 4月

* 英語教育研究会を発足。以後、毎月1回の定例会。
* 学びの地域ポータルサイト設置準備委員会立ち上げ

2003年 5月

* 第2回定時総会を谷田部公民館にて行う

2003年 6月

* つくば市立二の宮小学校にて講義
「小学校英語活動の心得」

2003年 8月

* ライズ学園「オープンスクール」を実施
* 県教委より、文部科学省委嘱事業「NPO等と学校教育との連携の在り方についての実践研究」推進協議委員の委嘱を受ける

2003年10月

* 筑波大学学園祭にて講演
「子ども達のつまずきに学ぶ」

2003年11月

* つくば市他主催「つくば男・女(みんな)のつどい」にパネラーとして参加

2003年12月

* 茨城県経営者協会他主催「茨城NPOフォーラム」にて活動事例発表
* 茨城県立医療大学にて講義「不登校や障害のある子ども達のための地域における教育支援」

2004年 1月

* CAP模擬こどもワークショップを水戸こどもの劇場と共主催

2004年 2月

* つくば市立荊崎第三小学校家庭教育学級にて講演

メールアドレスが 変更になります

リヴォルヴ学校教育研究所のメールアドレスが、下記に変更になりました。

np_o_rise@ybb.ne.jp



スタッフのつぼやき



ライズ学園での2年間を振り返って

関西からつくばに来て半年、ライズ学園の活動を知ったのは、新聞の特集を見てでした。「私も何かお手伝いすることができたらいいな。」と思ったものの、すぐには電話をかけることができませんでした。それまで高校で教師をしていましたが、結婚とともに退職、引っ越し。小・中学校の子ども達と接することのなかった自分に何が出来るのか、電話で何を言ったらいいのかわからず悩んでしまったからです。

何日か考えた後、「ダメならダメでしょうがない。とにかく電話しなきゃ何も始まらない。」と思い、ドキドキしながらダイヤルをまわしました。すると電話で、小野村先生があつた優しい(?)声で応じてくださって、思っていたことを話すことができました。

そして約2年間、ライズのみんなや地域の人達と多くの出会いがありました。思い出はたくさんあって、1つ1つ書くことはできません。今また、主人の転勤で関西に戻った私ですが、ライズのみんなと思いきり笑ったり、泣いたりした日々は大切な宝物になっています。

どんなことでも新しいことに飛び込んだり、挑戦したりする時は、恐いし勇気がいります。ライズにきているみんなも誰もが、一番最初の日にはドキドキしたに違いありません。でもそこで一歩踏み出してみると、新しい出会い、出来事が待っているのだと思います。

楽しい思い出をプレゼントしてくれたみんなに、心からの「ありがとう」(三重弁のアクセントおぼえてくれる?)を贈ります。そしてこれからも、新しい何かに挑戦をしてきたいと思っています。

文 ライズ学園元スタッフ 山崎 麻由和

表面から続く

アインシュタインも簡単な計算ミスが多かったと言われる。

そもそもA君のこだわりも、マイナスばかりであるとは言い切れない。彼は授業中にも脱線を繰り返す。教師の一言から思わぬところへ発想を展開してしまっ、その間はまったく教師の話が耳に入らなかったりする。しかしそういった発想やこだわりの中からこそ、新しい発見が生まれることもあるのではないだろうか。

私達にもできること

学校教育をどう改めようとも、それだけではあまり効果は期待できないだろう。ま

ずは社会そのもののあり方から問い見直す必要がある。

しかしだからといって、現場の教師や地域で暮らす私たちには何もできないことがないかという、これは間違っている。それぞれの立場からの、小さな取り組みが大きな力にもなる。

「何をすればいいかわからなかったせいでしょうか。テスト前に質問に来る生徒が増えたり、今までとは取り組みが違ったんです。他教科の先生にもすすめてみました」

少し高揚した様子で語る若い先生に、私は言った。

「先生が行ったことは、小さくても立派な教育改革ですよ」

文 小野村 哲

ライズ学園だより

ライズ学園は、学校に行かずにいる子ども達のための小さな学校です。今のところ、開園日は週に4日。毎日来る子もいれば、学校に通いながら週に1日だけという子もいるなど様々ですが、平均して1日10名程度の子ども達が国語や算数の学習の他に、スポーツを楽しんだり、和太鼓を練習したりしています。

昨年は、NPO法人自然生クラブの協力を得て、古代米の田植えや稲刈りにも挑戦しました。11月には野田市にあるキッコマン醤油の工場見学にも出かけました。午後には清水公園へ。アスレチック広場に子ども達の元気な声がこだましていました。



ホームページ リニューアル進行中

* ホームページでも、ライズ学園の日頃の様子などご覧いただけるようにリニューアルを進行中です。ご期待ください! なお、ライズ学園についてのお問い合わせは、リヴォルヴ学校教育研究所二の宮事務所までお願いします。

ホームページもご覧ください!
<http://www.rise.gr.jp>

あなたの知識や経験を学校教育の場で生かしてみませんか

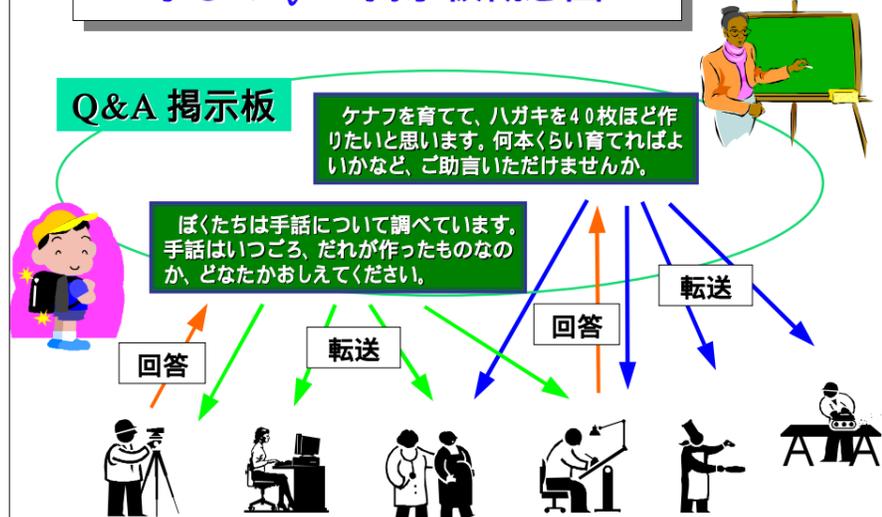
今、地域の教育力に大きな期待が寄せられています。しかし、多忙な日々を送られている皆さんの中には、「わざわざ学校まで出向くことは難しい」という方がいる一方で、「人材バンクに登録はしたが、その後まったく音沙汰がない」という声もお聞きます。

そこで私達は、総合的な学習の時間など様々な場面で子ども達が抱いた疑問に広く地域の皆さんに回答をいただけるよう、インターネット(WEB)上に「学びのQ&A掲示板」等を立ち上げました。また、直接学校に出向き授業等に参加するゲスト・ティーチャーの招へいに際してのコーディネートを行うなど「いばらきマナビィ・ネット」の運営に取り組んでいます。

既存の学校に適応できずにいる子ども達のための小さな地域立学校の設立とともに、今後は、学校をもっと楽しく豊かな学びの場とするための活動にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

* 本事業は、文部科学省委嘱「NPO等と学校教育との連携の在り方についての実践研究」の一環として行われているものです。NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所は、他団体とともに本事業に参加しています。

学びのQ&A掲示板概念図



回答ボランティア募集!!

まずは現在、子ども達や先生達からの質問にメールで回答いただく、回答ボランティアを募集中です。お問い合わせは、Eメールで下記までお願いいたします。

npo_rise@ybb.ne.jp

文 北村 直子

編集後記

荻野(旧姓:田中)事務局長、中村理事の結婚、そして事務局の染谷さん、さらに荻野事務局長の出産と、おめでた続きだったリヴォルヴ学校教育研究所。文部科学省の委嘱事業にも参画して、事務局はてんでご舞いでした。皆さまに会報をお届けするのがすっかり遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

まだまだ多くの課題が残されてはいますが、雑誌や新聞にも取り上げられるなど、短い期間にここまでこれたのも皆様のご理解とご協力のおかげと心より感謝いたします。

今後とも、変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。事務局一同